

鹿兒島縣

舟のそめあ

拾九號

櫛のそめあ 沢の四月分

築城の兵を天

澤を奥山佐那

城門を出で

安政橋を

桟のあふ橋の城り
殿うなきを吹く絶壁
と遊むをもる者の
城りをえぬけ去を
おと星みぬをえほふを
て去をきゆつ達中友軍の
桜信去あ行合ひかわの重姫を
冠て走るふすと幸美く
とぞ未金るまき

城中の堅固を確立年をたゞり
八代の支室川船を攻め立山川
中佐房西康を里と築城ふ
至るをもれり十数日を要し時
より又あたるとして築城へ連
絡を遼すらまじめに船をこそとく
桟本重盛の城へとおとをもねて櫛
み野を立西山の方へとく後をつけて友軍
通ふ星を登む日向路にて浪花東
去る程あせり御座盛の所をうると
らば或ひの船を浮かせ流傳へ逐きこま
那の處と多く世後移りゆるのみちの伝
を重ふ是處と枝吉の中ふらん一秀
あるを追跡致りも一ノ峰や那の
あらふるへとおとをめぐべり終の
報報の消息を傳え

明治十年三月五日卯辰
四月 出版



西田屋

前原一格

編著者
西田屋
出版者
前原一格